

1-R-1

乳腺疾患における新生血管形態に関する考察

嶋 榮

諸語：第二世代の超音波造影剤ソナゾイド（Sonazoid Contrast-Enhanced Ultrasound 以下 S-CEUS）は、造影 MRI 検査との比較においても正診率と特異度の有意な向上が認められたことから、2012 年 8 月に乳房腫瘍性病変に対して適応が拡大された。今回の発表では乳腺疾患における新生血管の形態と S-CEUS の画像所見を中心に報告する。

対象および方法：液状化細胞診検体処理法（LBC 法）を行った穿刺吸引細胞診症例で病理組織検査が施行されたものを対象とした。検討内容は、LBC 標本で認められた血管間質の出現パターンを、「U ターン型の血管」、「分岐状血管型」、「毛細血管型」、「血管瘤形成型（vascular aneurysm formation type）」および「微小血管の増生（microvascular proliferation）」に分類し、組織型と比較検討した。

結果および考察：U ターン型の血管は、LBC 標本で認められる乳頭状血管所見は乳頭腫、非浸潤性乳管癌乳頭型、充実乳頭癌で認められた。乳頭腫では血管周囲に結合組織や筋上皮細胞を伴う血管が多く観察された。一方、乳頭癌などの症例では血管内皮細胞のみからなる辺縁が平滑な“裸血管”が観察された。これらの所見は乳頭腫と乳頭癌を細胞学的に鑑別する一助になると考えられた。分岐状血管は、粘液癌の純型 type A で観察された。

細胞学的形態で得られる新生血管の形態と S-CEUS の画像所見は、良悪性判定の一助になると可能性が示唆された。

1-R-2

日本に紹介された「ネウボラ」に関する文献検討

高城智圭

【目的】わが国では妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援のために、フィンランドのネウボラ（出産子育て相談所）を参考にした「利用者支援事業（母子保健型）」が 2015 年から施策化され、それを機に日本版ネウボラを行う市町村が出てきた。そこで本研究では、わが国に紹介されたネウボラについての文献を概観し、今後の有効な子育て支援への一助とすることを目的とする。

【方法】全年度の文献を対象とし、“ネウボラ”をキーワードとして検索を実施した（2017 年 8 月実施）。医中誌 web 24 件、CiNii 35 件、最新看護索引 web 7 件が抽出され、重複を除いた 44 件について内容を検討した。

【結果及び考察】ネウボラに関する報告は 2007 年からみられ、2015 年に件数が急増していた。フィンランドのネウボラの特徴として、同一の保健師等による妊娠期から子育て期の継続支援や医療・保健・福祉サービスが 1 ヶ所で包括的に提供されることが挙げられる。2014 年以降の報告では、現行の母子保健施策との関連や保健師への期待が多く見られたが、これは地区担当保健師による一貫性、継続性のある母子保健活動や現行の施策がネウボラと類似した点を多く含んでいるためと考えられる。しかし日本版ネウボラでは医療は含まれず 1 ヶ所でのワンストップ提供は現実的に困難である。今後は医療を含んだ包括的支援のシステムの構築が大きな課題であり、保健師がもつコーディネート機能が益々求められるようになると思われる。